

## 爐邊幼稚園

□炭も少ない此冬。わけても、戦地の兵隊さんの御苦勞を思つては、爐邊なぞと、いつもの冬らしい言葉は恐縮ですがそれでもまあ、冬はやつぱり火鉢のそばが楽しみです。

□そこではお母さんのお話も出来ませう。昔々ねも古めかしいが、お母さんのお話は親ゆづりの種子が多く、子どもの時、同じやうな爐邊で聞いたお話を思ひ出しては話し出すのでせう。その中には、相當如何がわしいものもあるかも知れませんし、教育的とかいひ出したら落選かも知れませんが、そこに、家庭話らしい一種の味が却つてあるともいへませう。第一、話手自身、子どもの時に歸つてゐるのが何よりです。「お母さんが、お母さんのお母さんがお母さんにお聞きになつたといつてよく聽かせて下さつたお話を上げてませうか。」といつた具合で、聊か出典がやゝこしいのですが、そ

れこそほんとうに昔話です。

□爐邊では、いろ／＼のいゝ香がして來ます。芋の匂、栗の匂、餅の匂。いゝものですね。普通の幼稚園では、どうも、かうした、なつかしい味も出にくく、香もたゞよびにくいものです。それこそ、家庭幼稚園の特色といへませう。蜜柑なんかも灰にくべて、熱くなつた皮をふう／＼いひながらむいてたべるのも、甘くつてあつたかいいものです、それが何んで幼稚園がつて。そんなことおつしやらなくても、楽しければ、親しみ深ければ、それでいゝじやありませんか、尙ほお尋ねがあれば、立派な觀察ではありませんかとお答へませう。

□爐邊では、いろ／＼の遊びが行はれます。言葉遊びでは、なぞ／＼、しりとりと、考へもの、あてもの、その他、その家に傳はり、その地方に傳はる遊びが、賑かに行はれます。兄さんが學校から歸省してゐるといふやうな時には、ちか／＼さんまわそじやないかと、爐をめぐつて大笑ひが爆發することもありませう。そ

れは皆、相當注意をはたらかせ、頭をはたらかせ、頓智をはたらかせて、立派な教育効果をもつてゐることです。

□爐邊幼稚園の一大景物は、お客さんです。隣のおばさんが飛び入りのことがあります。親類のおぢさんが幾晩か座り込むことがあります。そういふ時、おとなの話には分らないこともあり、ねむくなることもありませう。しかしまた、半分分つて半分分らないやうな、おとなの話なだまつて聽いてゐるのも面白いことです。人の話をだまつて聽くといふことには、一種の教育もあることです。が、それよりも、おとな同志の親しい會話を、その意味よりは、人間劇として、聽いてゐる味は、いふにいへないものです。人間といふものは、親しいものであり、作法のあるものであり、それに見えてゐるだけでも、なか／＼座を立てないものです。

□爐邊幼稚園は、こんな楽しく、味もあるのですが、たゞ一つの注意は、夜ふかしにならぬことです。火はあかあか、お湯はちん／＼、おとなの話は盡きない。そこを割愛して寝ないといすがねむい。